

# CAYA世代・がん患者様の 治療後の未来を見据えて

～妊よう性温存のため、いま私達ができること～

がん治療は手術療法、薬物療法、放射線療法と多岐に渡り、集学的に行います。近年、医療の進歩とともに「がん」は治せる病気となりました。しかし、治療によって患者様は男女を問わず妊娠する力（妊よう性）を失ってしまうことがあります。がん治療を行なう前に、治療による妊よう性喪失のリスクを患者様に理解していただいた上で、がん治療主治医、生殖医療専門医と共にそれを回避しようとする当院の取り組みについてご紹介します。

## 7月20日(木) 18:30~19:30

現地参加は定員50名となります（先着申込順）

会場  
友愛医療センター7F  
豊見城市与根50-5

ご来場/ZOOMとも  
事前申込制となります。

右のQRコードからお申し込みください。

当日のZoomアクセス情報  
ミーティングID: 847 2799 3389 / パスコード: 8503811

参加申込用QRコード  
(Zoom用ではありません)



座長



野原 理  
友愛医療センター  
不妊センター長

第一部 講演  
18:35~19:00

沖縄県内における  
妊よう性温存の  
現況



白石 康子  
友愛医療センター  
生殖医療専門医

第二部 講演  
19:00~19:15

妊よう性温存の  
カウンセリングの  
実際



大嶺 美幸  
友愛医療センター  
不妊症看護認定看護師

第三部 講演  
19:15~19:20

妊よう性温存に  
対する胚培養士の  
役割



佐喜真 斉  
友愛医療センター  
エンブリオロジスト主任

第四部 講演  
19:20~19:25

沖縄県における  
妊よう性温存療法  
の助成金制度



宮里 聡子  
友愛医療センター  
医療事務作業補助者 副主任

